

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



●りんご作業（10／15～11／15）

中生種の収穫や晩生種の着色管理が最盛期となっています。農作業事故には十分注意し、安全第一で作業に努めて下さるようお願い致します。

リンゴの収穫については、早すぎるや貯蔵中のビターピットの発生が多くなり、遅すぎると油あがりや果肉の軟質果の原因となります。地色の抜け具合を確認し、適期収穫に努めましょう。尚、収穫時に悩んだ場合には、農業振興課に相談いただければ調査に伺います。

収穫した果実はその日の内に入庫することを心掛け、鮮度維持に努めましょう。さらに、リンゴの盗難に注意が必要な時期となりました。園地での野積みは絶対に避けるようお願いします。

●疫病対策について

疫病は土壌中に生息し、秋になると菌密度が高まります。また、果実被害の発生は貯蔵中及び出荷後に多く見られます。対策として

次のことへ十分注意して作業に当たります。

（１）降雨時の収穫はできるだけ避ける。

（２）収穫力ゴの底にネットを敷き、果実が地面と直接接触しないようにする。

（３）泥の付いた手袋などで果実を触らない。

（４）反射シートを片付けるときは、土を飛散させないように注意する。

●野鳥被害対策

鳥獣保護法により、原則的に保護したり殺したりすることが禁止されています。防止対策としては忌避する方法のみとなっています。釣り糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合は1m以下）で張るようにしましょう。尚、ヒヨドリの場合は体が小さく、飛行能力が高いため、効果が低いとされています。さらに、音声機器や爆音機などの防鳥器は慣れが生じやすいため、様々

な器具を組み合わせながら短期間で変えることも重要です。

●積雪前の野ネズミ対策

園地が汚れていると、野ネズミの侵入が容易になり、被害を受けやすいため園地をいつも清潔にすることが大切です。生息密度低下のため、殺そ剤と忌避剤を併用した対策に努めましょう。

・忌避剤による防止

（１）アンレスの10倍液を樹幹部に塗布又は散布する。

※ 使用するときは、噴口のつまりを防ぐため、よく練ってから希釈をおこないましょう。また、24時間降雨等ないことを見越して使用してください。

（２）根雪前、樹幹下半径50cmの範囲の落葉、雑草等をあらかじめ取り除いた後、フジワン粒剤を1樹当たり200g均一に散布し、表土とよく混和する。

・被害の回避

樹幹に対する野ネズミの被害は成木よりも若木に多いため、苗木及び若木は晩秋に地上1m位の高さまで合成樹皮のプロテクターなどの被覆資材を巻きつけて下さい（積雪の深いところでは更に上まで）。

これで
ネズミも
イチコロ！



ラットシードF

殺鼠剤



購買課にて
取扱い販売中

内容量：1 kg

価格 **2,739** 円 (税込)

果実販売動向

販売課 山内 結雅



平素よりJA相馬村フルーツ
テーションをご利用いただき誠に
ありがとうございます。

月の果実販売動向をお伝えいた
します。

桃については、月の初めは売場
が秋果実中心の構成に切り替わる
中、長野県産が終盤となり福島県
産・本県産が安定して入荷された
ことにより荷動きは鈍く価格は下
げ基調での推移となりました。2
週目には本県産も終盤を迎え総体
量が減少したものの、連休前の引
き合いから安定した価格推移とな
りました。

梨については各産地本格化を迎
え総体量が増加する中、末端では
広く売場が確保されていたことか
ら安定した荷動きが続き、価格は
保合推移となりました。

ブドウについては、シャインマ
スカットは小房傾向から入荷比率
の高いパック品については荷動き

の鈍い状況が続きましたが、中秋
節需要の終了後は価格を下げなが
らの販売となったことから売場は
広く確保され安定した荷動きとな
りました。黒系についてはナガノ
パールや巨峰を中心に流通しま
したが総体量の少なさから堅調な
価格で推移しました。

リンゴについては、月の前半は
長野県産サンつがるが本格化を迎
え本県産についても入荷が開始さ
れましたが色薄・小玉傾向となっ
ており入荷比率も高いことから荷
動きの緩慢な状態が続いたものの、
総体量では入荷量の少なさから上
位等級品を中心に安定した引き合
いが続き、高値基調での価格推移
となりました。中旬以降は長野県
産サンつがるが概ね終了を迎えシ
ナドルチェ・秋映等に移行し、
本県産はサンつがるが本格化を迎
える中、売価高による末端消費の
停滞から市場段階でも在庫を抱え

ため引き合いは鈍く価格は下げ
基調となりました。

今後の展開は、ブドウについて
は黒系が引き続き少ない入荷が続
く見込みです。

シャインマスカットについては
値ごろ感のあるパック品を中心に
安定した荷動きが予想され、価格
は強保合推移が見込まれます。

柿については入荷量平年並みが
見込まれますが、夏場の干ばつと
9月の高温の影響による小玉傾向
と着色遅れから出荷は遅れる見込
みです。

リンゴに関しては、今後本県産
サンつがるが終盤となり早生ふじ
の入荷が始まりますが数量はまだ
少ないことが推測されるため、長
野県産秋映が10月2週目以降増加
となる見込みから、10月中旬以降
は厳しい販売が予想されます。

当農協では、今後中生種の選果
荷造り作業が本格化していきます。

今年は外国人従業員が大幅に増
員されたことにより選果作業がス
ムーズに進んでいますので、引き
続き円滑に選果作業を進め、適期
有利販売に努めてまいります。

全農あおもりデータ（9／30 累計）

品 種	つがる	きおう	ト キ	その他	合 計
単 価 (円)	3,875	3,561	3,793	3,706	3,802
前 年 比 (%)	125	110	97	102	120
販 売 数 量 (箱)	406,562	110,872	4,279	30,963	552,676
前 年 比 (%)	73	103	43	70	77